

コレステリルグルコシドを介する新たな細胞内ストレス応答の分子機構

キーワード：コレステリルグルコシド ストレス応答 ラフト 脂質性メディエーター

人間文化創成科学研究科自然・応用科学系 専門分野 細胞生化学 小林哲幸

E-mail:kobayashi.tetsuyuki@ocha.ac.jp URL: <http://www.ocha.ac.jp/tousa/files/Page534.htm> TEL:5978-2604

糖脂質の一種であるコレステリルグルコシドは、ストレス応答の初期に細胞内で生合成され、Hsp誘導のための脂質性メディエーターとして機能することを見出した。また、Hsp誘導剤として、消化器潰瘍をはじめとする疾患の治療・予防に利用可能であることが示された。今後は、合成機能分子としてのステリルグルコシドに着目し、細胞の熱ストレス応答における本分子の役割を解明するために、相分離領域としてのラフトの形成と膜タンパク質集積に及ぼす影響について人工膜モデル系で解析する。

